

# 図書館だより



1月号

2024年1月24日  
安田小学校図書館

## ■自分たちでイベントを考える

図書委員会の発案で、折り紙でしおりをつくるイベントを休憩時間に行いました。ポスターを作ったり、手伝いをお願いしたりとこつこつ準備したおかげで、図書館に来た人が喜んでくれる会になりました。



## ■本を紹介しよう（3年生）

冬休みにたくさん読んだ本の中から、一番好きな本を、お友達に紹介する授業がありました。親子読書と読書の記録の中から選んだ1冊をもとにして、タブレットで原稿を作ったのですが、本選びで悩む児童はほとんどいませんでした。それだけしっかり読書に取り組むことができていたのだと思います。

3年生は、4月と比べると、本の選び方に個性が出てきて、高学年の読書に向けての準備ができはじめている様子が見えます。周りとは比べず、一読してすんなりと内容が理解できるような本を、この時期にたくさん読んでほしいものです。



↑楽しみにしている、授業前の読書間かせ



## 保護者の皆様へ「冬休みが終わって」

冬休み前の貸し出しでは、保護者の方々と本の話をする事ができ、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

家での読書の様子を保護者の方々から伺ったことと、冬休み明けの子どもたちの授業での様子を見て、家と学校の読書はつながっているのだと感じました。学校での貸し出しだけでなく、そういったことも考えながら、読書支援をしていきたいと思ひます。何かありましたら、いつでもお声がけください。

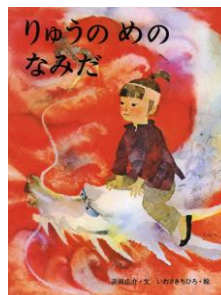
## 千支の本



低学年

### 『りゅうのめのなみだ』

浜田広介/文 いわさきちひろ/絵 偕成社



みんながこわがる恐ろしい「りゅう」を、自分のたんじょうび祝いに呼びたい。そう思った男の子は、りゅうの隠れ家に行つてこう言いました。「ぼくはおまえさんをにくみはしない。いじめはしない。」

『泣いた赤おに』を書いた浜田広介らしい優しく美しい童話です。

### 『ほしになつたりゅうのきば』

蕭甘牛/採話 君島久子/再話 赤羽末吉/画 福音館書店



むかし、二匹の巨大なりゅうがあばれて、空がやぶれてしまいました。主人公のサンは、村のみんなを守るために、天のさけめを直す方法を見つける旅に出ます。日本の民話と比べると、登場人物も、天のさけ目を直す方法も大胆!中国の広い国土を感じさせる、スケールの大きな民話です。

中学年

### 『でんぞら竜がでてきたよ』

おのりえん/作 伊藤英一/絵 理論社



「でんぞらりゅうば でてくるばってん♪」この歌を知っていますか?女の子がこの歌を歌いながら紙に書いた卵から、コーンコンと音がして、なんと小さな「でんぞら竜」が生まれてきたのです。その竜は、紙のようにペラペラで弱虫なのに「ながさきにく。」といいはじめました。

高学年

### 『シノダ!チビ竜と魔法の実』

富安陽子/作 大庭賢哉/絵 偕成社



豪快なママ(本当はキツネ)のんきなパパ(人間)、3人の子どもの信田ファミリーは、いつもやっかいごとに巻き込まれます。今回はお風呂場に住み着いたちびっこ雲竜のお話。このシリーズが大好きな6年生から「2巻目はさらに面白いです!」との声。スピード感のある面白い話が好きな人におすすめです。

### 『ドラゴン学』

ドゥガルド・A・スティール/著 今人舎

個体数の激減で、もはや伝説の生きものとなりつつあるドラゴンについて、ドラゴン・マスターであるアーネスト・ドレイク博士が書き記した書物。ドラゴンの分類、生態、生息地等、この学問を学び始めるにあたっての足掛かりとなる知識が網羅されている。この本の目的は、博士が生涯をかけて得たドラゴンの知識を伝授し、残り少なくなったドラゴンを保護する人間を育てることである。